

中 学 校

平成 2 7 年度

教育研究員研究報告書

外 国 語

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	2
IV	研究方法	3
V	研究内容	5
VI	研究の成果と課題	23

研究主題

思考力・判断力・表現力等を高めるための 技能統合型の言語活動を用いた指導の工夫

I 研究主題設定の理由

本研究では、研究主題を「思考力・判断力・表現力等を高めるための技能統合型の言語活動を用いた指導の工夫」と設定した。主題設定の主な理由は二点ある。一点目は、国が実施した調査結果等から明らかになった現在の英語教育における課題解決につながる研究にするため、二点目は、本研究員8名が、生徒の実態を踏まえ、日常の授業で課題と感じていることから更なる授業改善につながる研究にするためである。

現在、日本を訪れる外国人観光客数は年々増加し、1,100万人を超えた（日本政府観光局平成27年1月～7月）。2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を控え、日本にいながらにして日常的に外国人と接する機会が増えていくことが予想される。そのため、中学校学習指導要領外国語の目標に示されているように、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」ことが求められており、生徒の英語力の向上は喫緊の課題である。

こうした社会情勢の中、中学校学習指導要領解説外国語編では、OECD（経済協力開発機構）のPISA調査などの各調査を踏まえ、思考力・判断力・表現力等の育成と、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成が課題として挙げられている。

ところが、平成26年度に文部科学省が全ての公立中学校を対象に実施した「英語教育実施状況調査（中学校）」によれば、中学校第3学年に所属している生徒のうち、英検3級程度（中学卒業程度の英語力）以上を取得している生徒は全国で34.6%にとどまっている。平成25年度同調査結果から、数値は上昇しているものの、文部科学省「第2期教育振興基本計画（平成25年～29年度）」において、学習指導要領に基づき達成される英語力の目標「中学校卒業段階：英検3級程度以上を達成した生徒の割合50%」を大きく下回っている。

また、同調査では、授業における「生徒の英語を用いた言語活動の時間」に関して「おおむね行っている」と「半分以上の時間、行っている」を合わせた割合が、1学年では56.0%、2学年では51.2%、3学年では47.7%という結果が出ている。

このような現状を踏まえ、「グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言」（英語教育の在り方に関する有識者会議 平成26年9月26日）では、グローバル化が進む社会において、国際共通語である英語力の向上は日本の将来にとって極めて重要であるとすると同時に、今後の英語教育改革においては、「思考力・判断力・表現力等の育成」を重要な課題であるとし、改革1「国が示す教育目標・内容の改善」において、中学校では「互いの考えや気持ちを英語で伝え合うコミュニケーション能力の養成を重視する」としている。

本研究に携わる8人の研究員が、授業における課題を振り返ってみると、自己の考えや気持ちを伝え合う活動がほとんど取り入れられていないという現状が挙げられた。具体的には、

「読むこと」について、教科書本文の内容理解と音読活動にとどまっていることや、「話すこと」について、実際に自分の考えや気持ちを伝える活動ではなく、型が決まった会話や原稿に基づくスピーチ等を発表する活動にとどまっている。そのため、生徒は聞いた事柄について自分の考えや気持ちを伝える即興力が身に付いておらず、改善に向けた指導も十分でない。その理由として、「生徒が自分の考えを振り返る時間が設定されていない」、「学習事項が定着しておらず、既習事項を十分に使いこなせていない」、「自分の英語を話すことに精一杯で、聞き手を意識して話す力が弱い」等が考えられる。

このように学校現場で感じている課題や、生徒の実態に加えて、上記調査結果が示す課題を改善するには、技能統合型の言語活動（読んだり聞いたりしたことに対して、自分の考えや意見をもったり、それらを話したり書いたりして表現する活動）を、意図的・計画的に指導に位置付けていくことが有効であると考えられる。日常生活で行われているコミュニケーションでは、「聞くこと」・「話すこと」・「読むこと」・「書くこと」の4技能のうち二つ以上の技能を統合させた活動が多く見られることから、授業内でも同様のコミュニケーション活動を展開していく必要があると考えられる。

以上のことから、生徒が英語で読んだり聞いたりしたことについて感じたり、考えたりしたことを、どのような表現を使えば相手に分かりやすく伝わるか自ら判断し、適切な英語を用いて表現することで、英語の4技能を向上させることができると考え、本研究の主題を「思考力・判断力・表現力等を高めるための技能統合型の言語活動を用いた指導の工夫」とした。

II 研究の視点

さらに、平成26年度「英語教育実施状況調査（中学校）」（文部科学省）では、生徒が英語を用いた言語活動の時間は、授業時間の約半分程度しかないことが分かった。この原因として、技能統合型の言語活動の実践について、多くの英語科教員にとって情報や経験が不足していることが考えられる。そのため、授業内の英語を用いた言語活動を更に充実させる必要がある。

したがって本研究では、まだ実践例の少ない技能統合型の言語活動を用いた指導に焦点を当て、一人でも多くの英語科教員が共有できる汎用性の高い実践の開発を目指した。研究を進める際の留意点としては、第一に教科書を用いた活動であること、第二に短時間で行える活動を取り入れることとした。

III 研究仮説

読んだり聞いたりしたことについて、自分の考えや気持ちを英語で話したり、書いてまとめたりする技能統合型の言語活動を継続的に行うことで、学んだ知識や得た情報を自分の体験や考えと結び付けて表現することができるようになり、これらの活用を通して生徒の思考力・判断力・表現力等が高まるであろう。

IV 研究方法

1 技能統合型の言語活動の実践、意見交換に役立つ表現集、ワークシート、記録用紙の開発
指導過程における教科書本文の内容を理解する活動において、聞いたり読んだりした内容について、生徒が主体的に関わりをもてるような発問をすることで、技能統合型の言語活動を行うこととした。また、活動の際、生徒がよりコミュニカティブな表現活動を行うために、参考となる表現集を開発した。さらに、研究の成果を検証するために、生徒の変容を捉え、定量的評価を行うためのワークシートと記録用紙の開発を行った。ワークシートには、意見交換の際に話した英文を書かせ、記録用紙には、その日の授業で生徒が発話できた英文数と、学年ごとに設定した目標を意識できたかを自己評価させた。

2 指導実践

開発したワークシートを用いて、本研究員全ての学校で、それぞれが技能統合型の言語活動の指導を実践し、生徒の活動を記録用紙に記録させた。

3 記録用紙による生徒の変容の考察

生徒が発話した英文の数、内容を記録させ、量的・質的な表現力の向上について生徒の変容を観察した。

4 研究成果のまとめ

記録用紙を集計し、研究開始時と一定期間指導した後のクラス全体の発話数を比較した。また、無作為に抽出した生徒の発話量及びその内容、記録用紙に記述した内容（使用表現の増加や発話した内容構成の工夫）等を考察することで、表現力の変容を検証した。

外国語科の目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

平成 27 年度東京都教育研究員部会共通テーマ

「思考力・判断力・表現力等を高めるための授業改善」

[現状と課題]

生徒の英語力

・中学第 3 学年に所属している生徒のうち、英検 3 級程度以上を取得している生徒は 34.7%であり、目標の 50%を下回っている。
「平成 26 年度英語教育実施状況調査(中学校)」(文部科学省)

英語授業における技能統合型の言語活動

・学習指導要領では、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の 4 技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成するとあるが、技能統合型の言語活動を行っている教員は 33%にとどまっている。
「平成 26 年度英語力調査」(文部科学省)

実際の授業

・生徒が英語を用いた言語活動を授業の半分以上行っている割合は約 48%である。
「平成 26 年度英語教育実施状況調査」(文部科学省)
・他人の意見を聞いて、自分の考えを見直したりする活動が少ない。

【目指す生徒像】

- 英語で読んだり聞いたりしたことについて、自らの体験等と結び付け主体的に考えられる生徒
- コミュニケーションを図る場面で、必要な表現を既習事項の中から適切に選択できる生徒
- 自分の考えや気持ち、事実等を相手に英語で分かりやすく伝えられる生徒

【研究主題】

思考力・判断力・表現力等を高めるための技能統合型の言語活動を用いた指導の工夫

[研究仮説]

読んだり聞いたりしたことについて、自分の考えや気持ちを英語で話したり、書いてまとめたりするような技能統合型の言語活動を継続的に行うことで、学んだ知識や得た情報を自分の体験や考えと結び付けて表現することができるようになり、これらの活用を通して生徒の思考力・判断力・表現力等が高まるであろう。

[研究内容]

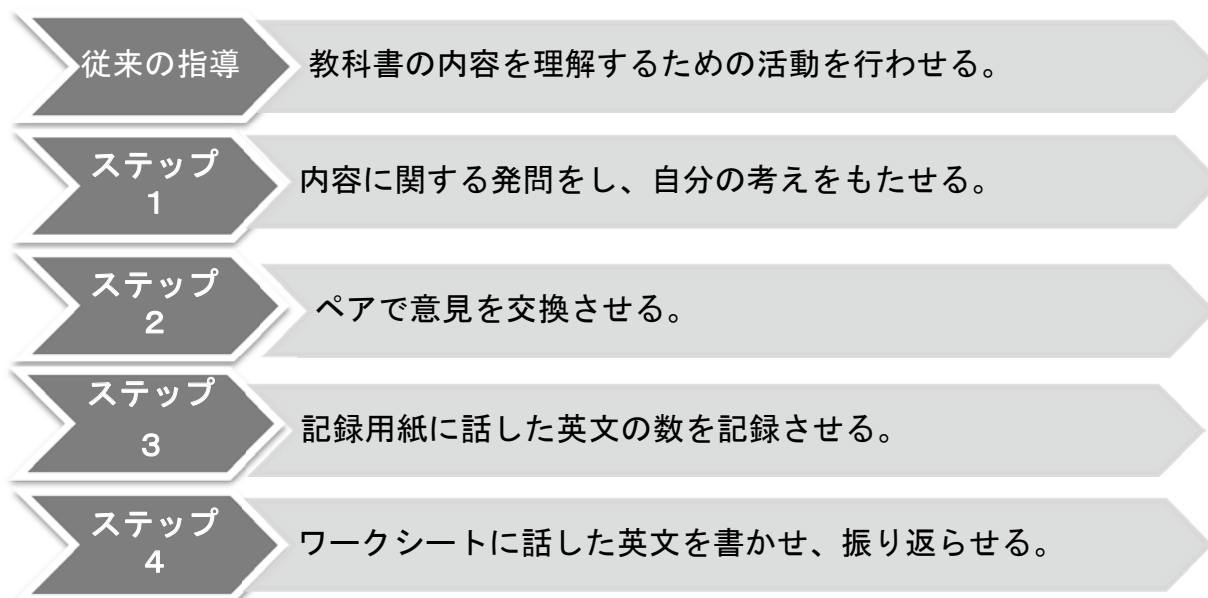
- 思考力・判断力・表現力等を高めるための技能統合型言語活動の検討・実践・検証
- 教科書を発展的に扱う活動を実践し、活動を通し生徒の思考力・判断力・表現力等の変容を見取る。

研究の成果と課題

V 研究内容

「シンプルで汎用性の高い実践」を目指し、従来の学習指導に負担を与えないよう、言語材料の活用場面を意図的に設定し、継続的な指導により生徒の思考力・判断力・表現力等を高める技能統合型の言語活動の実践を研究した。具体的な指導過程は以下のとおりである。

1 技能統合型の言語活動の例



従来の指導に従い、まずピクチャーカードを用いたオーラルイントロダクション、内容理解のための質疑応答、音読（暗唱）活動等を行う。

ステップ1では、オーラルイントロダクションで使用したピクチャーカードを用いて、聞いたり読んだりした内容に生徒が主体的に関わりをもてるような発問をする。具体的には、絵の描写やテーマの一部に関する質問をして、各生徒に自分の考えをもたせる。

ステップ2の意見交換は、学年が上がるごとに自然なコミュニケーションに近づけるよう、話し手・聞き手それぞれに学年に応じた目標を設定した。例えば1、2年生では、チャット形式であると、生徒の英語力によって発言できない可能性があるため、簡潔に自分の意見を順番に伝え合う形の中で、発話を継続していくタスクを設定した。その際、「I like ～。」等同じ動詞ばかりを使わないように、「なるべく違う動詞や表現を使う」という条件を付けた。

ステップ3の記録用紙には、定められた時間に発話した文の数を記録させた。一定期間継続して記録することにより、発話した文の数が増えていく過程を視覚的にも分かるようにし、生徒にとっても励みになる活動にした。

ステップ4では、ワークシートに発話した英文を記録させた。生徒が自分の意見を論理的に伝えられているか確認できるよう、「自分の考え、意見の理由を具体例や体験談を用いてより詳しく説明できているか」という指標をワークシートに記載した。このことによって、発話文数が増えていくことが表現の幅の広がり結び付くように考えた。意見交換後には、

ワークシートに自分の最初の考えと、意見交換を通して新たに浮かんだ考えや、相手の意見に対する自分の意見を記録させた。この過程が、他者との関わりの中で、生徒自身の考えを見つめ直し、より深めることにつながると考える。

2 技能統合型の言語活動の具体的手順

活動前(準備)

ステップ1

- (1) 教科書本文の内容理解を行った後、その内容について、自分の意見がもてるような発問 (**Today's Question**) を行う。教師はその発問に対し、必要に応じて発話のヒントとなる具体例を示す。また、生徒に対して発問内容に関する質問をして、自分の発話をイメージさせたり、発話する内容を考える時間を与えたりするなど、活動を促進するヒントを与える。

ステップ2

- (2) ペアで対話する (1 分間)。
 - ① 話し手と聞き手を決める。
 - ② S1 (話し手) は、1 分間、できるだけたくさん話す。
 - ③ 話し手は自分が発話した文の数を覚えておく。
 - ④ S2 (聞き手) は S1 の会話を聞き、目指す生徒像 (8 ページ参照) に準ずる反応を意識する。
- (3) 話し手と聞き手の役割を交代する。
- (4) パートナーを替えて (2) (3) の活動を行う。
- (5) (2) から (4) の活動を複数回行う。

活動後

ステップ3

- (6) 記録用紙に自分が発話した英文の数を記録する。

ステップ4

- (7) ワークシートに発話内容を書く (スピーキングの内容を文字にして、自分が話した内容の筋道だけでなく、文法やスペルの正確さを確認する。)
- (8) 聞き手が話し手の話をしっかり聞くように、相手の話したことも書かせるようにする。
- (9) 相手の意見に対して自分の意見や感じたことも書くようにする。
- (10) 英語でどのように言えば良いか分からなかった表現なども併せて書く。

活動時間

2 - 3 ペアの活動で、時間配分は全部で 10 - 15 分程度とする。

Today's Question (TQ) の具体的実践例

本文で学習した語彙や表現を使って、表現できる質問の設定を意識した。

例) New Crown 2 単元 Lesson 4 Use Read

TQ: **What Japanese food do you like?**

教師の発話例

T: We studied about two kinds of sushi. There are other famous Japanese food.
Please tell us about other kinds of Japanese food.

S: Okonomiyaki! Yakisoba! Natto! Nikujaga! Tempura! Soba! Udon! Wagashi...etc.

T: OK. We have a lot of famous Japanese food.

So, Today's Question is "What Japanese food do you like?"

その他 研究員が行った Today's Question (TQ)

< 1 年生 >

使用教科書	単元	Today's Question
Total	Lesson 3C	What sports do you play?
New Horizon	Unit 6-1	Please tell me about your friends.

< 2 年生 >

New Crown	Lesson 5-1	Where did you go for the day-at-work program?
New Crown	Use Read 5	What do you want to be in the future?
New Crown	Use Read 6	What is a famous place in Japan?

< 3 年生 >

Sunshine	Program 6-2	What do you think about a Japanese toy called <i>kendama</i> ?
Sunshine	Program 6-3	What do you think about our school trip to Kyoto?
Total	Lesson 5B	Have you ever helped people in need?

3 技能統合型の言語活動における各学年の到達目標

各学年の到達目標を以下のように定めた。

1 年生では、「話し手はトピックに対して理由や具体例を挙げて、自分の意見や考えを伝えることができる」「聞き手は相手の発話に対して適切な相づちを打つことができる」を目標とした。そこで、発話を円滑に進める補助となる表現集（10 ページ参照）を作成した。この表現集には教科書で使用されている表現を中心に記載した。

2 年生では、「話し手は 1 年生の内容に加え、つなぎ言葉や接続詞を用いて論理的に伝え、相手の質問に適切に答えることができる」、「聞き手は相手の発話に対して、質問をすることができる」を目標とした。つなぎ言葉に関しては、先述の表現集に相づちと合わせて記載し、活動時の生徒の補助資料として使用した。

3 年生では「相手の発話に対して、感想、賛否やその理由を述べることにより、やり取りを更に発展させることができる」を目標とした。3 年間の活動を通じて、言語活動をよりコミュニケーション的なものに近付けていくこととした。

<目指す生徒像【表現力】>

	話し手	聞き手
1年生	・トピックに対して、理由や具体例を挙げて自分の意見や考えを伝えることができる。	・相手の発話に対して適切な相づちを打つことができる。
2年生	・1年生の内容に加え、つなぎ言葉や接続詞を用いて論理的に伝えることができる。 ・相手の質問に適切に答えることができる。	・相手の発話に対して、質問をすることができる。
3年生	・相手の発話に対して、感想、賛否やその理由を述べることにより、やり取りを更に発展させることができる。	

4 技能統合型の言語活動を進める上での指導上の留意点

まず、本活動を円滑に進めるためには、質問の設定が重要である。教師は生徒の発話内容を予測して、質問を設定する必要がある。対話の発展性があまり見込めない質問の設定は避けるべきである。話したい内容、話すべきことが、ある程度考えられる内容、生活経験、身の回りのことなどの中から質問を設定する必要がある。

また、教師は活動前に多くの具体例を生徒に示すことが効果的である。教師がモデルを提示したり、生徒からいくつか例を引き出してイメージをもたせたりするなど、活動を促進するヒントを与える。さらに、考える時間を与えて、生徒が自分の会話をイメージできるようにさせるのも有効である。その結果、話したい気持ちが湧くことで、活発な活動が期待できる。もちろん即興力を身に付けるという観点からは、すぐに活動を実施した方が良いが、即興では話すことに抵抗感を感じる生徒もいるかもしれない。この活動に慣れるまで、特に導入期や低学年の生徒には、具体例を豊富に与えることが重要である。生徒の実態に合わせて具体例を段階的に減らし、最終的には具体例のない即興的な場面設定に近付けるなど、学年に応じた段階を踏んでいくことが大切であると考えられる。

次に、活動初期段階ではどのタイミングでどのような指導を行うのか、入念に計画する必要がある。初回の活動ではまず活動させ、うまく発話できないことを体験させるところから始める。その中で、どういう内容を話せば発話文数が増えるのかペアやグループで話し合わせ、自分の意見や理由、体験談などの具体例を挙げて説明することで、より論理的に発話文数を増やせることに気付かせる。この論理的な型を毎回意識して行わせることで安定して自分の意見を発信できる型を身に付けさせることができる。

この活動は、双方向的に会話を続ける「ダイアログ」の形式ではなく、一方向的に相手に話す「モノログ」の形式をとる。その理由は、生徒がパートナーの会話力に左右されることなく、「1分間に何文の英語を話すことができたか」という生徒自身の力がはっきりとした数字で表れるからである。指導者はたくさん話すことを生徒に呼びかけ、流ちょうに話す力の向上を意識させたい。また、もう一つのねらいとして、聞き手の態度、例えば相づちを打ったり、質問をしたり、意欲的に話を聞いたりすることで、話し手が話しやすい雰囲気を作る態度の育成がある。相手の話をよく聞くことによって、リスニング力の向上も図ることができる。パートナーの話をよく聞き、自然なコミュニケーションの中でリスニング力の向上をね

らう。そのため、ワークシートにはパートナーの意見を記録する欄が設けられている。同年代の生徒同士の会話であれば、リスニングの教材よりも、関心をもって取り組めると考える。

加えて留意すべき点は、この技能統合型の言語活動で生徒の発話文数を記録させることの弊害である。生徒は発話文数を増やすことに集中し、「I like～.」や「I play～.」のような、生徒にとって表現しやすい文を羅列することが考えられる。これでは発話文数が増えたとしても、表現力が高まったとは言い難い。話す内容を充実させるために、話す内容の「論理的な構成」に注目させる必要がある。なるべく違う動詞を使ったり、考えや意見を言った後、理由を言ったり説明したり、過去の経験や具体例を示したりして論理的につながっているかを確認させる。

また、” I did not go out. Because it was hot yesterday.” といった接続詞 (because, when, if) を使った従属節のみの文は一般的ではないことを指導する必要がある。しかし、あまりにも早い段階で上述の文の羅列や接続詞に関して指導すると、生徒の発話意欲を削いでしまう可能性もある。そこで初めは生徒がたくさん発話しようとする意欲を褒めながら指導し、2年生では従属節を、3年生では関係代名詞や後置修飾を用いた英文など、段階的な指導を重ね、1文の質の高さ、表現の正確さを同時に伸ばす指導を心掛けていく必要がある。

<記録用紙>

記録用紙		CLASS___ NO. ___ NAME _____				
	DATE	LESSON	QUESTION	書えた文の数	相手の発言に対する反応 ○△×	My Challenge (意識して使った単語・表現)
例	9/1	3A	Tell me about the best memory of your trip.	4	△	
1	/					
2	/					
3	/					
4	/					
5	/					
6	/					
7	/					
8	/					
9	/					
10	/					
11	/					
12	/					
13	/					
14	/					
15	/					

<表現集の具体例>

生徒の発話を促し、聞き手が発話の継続を助ける手掛かりとして表現集を作成し、活用させた。

話し手 speakers 【自分の意見を持ち、相手に分かりやすく伝える】		
<p>【自分の考えを伝える】</p> <p>I think (that) ... I don't think (that) ... I want to ... I like ... I like ...ing. I like to ... I have ... reasons. Firstly... / Secondly / Finally... In my opinion, ...</p>	<p>【感想を述べる】</p> <p>物事 It's (was) delicious / fun / interesting / cool / great / exciting / boring. 自分 I'm (was) interested / sad / happy / unhappy / tired / excited / nervous / scared. surprised / disappointed. I enjoyed ~ing.</p>	<p>【つなぎ言葉】</p> <p>Well... Um... Let me see... Let's see... I mean... You know...</p>
<p>【より具体的に情報を伝える (前置詞・接続詞を用いて)】</p> <p>前置詞 場所 in / at / on / under 時 every day / in the morning / at night / before dinner / after lunch / on Sunday(s) 例 For example, ~.</p>		<p>【会話を継続・発展させる】</p> <p>主語を変える I like udon. <u>My mother</u> likes it, too. I like soccer. <u>My favorite team</u> is (チーム名). 動詞を変える I like udon. I <u>eat</u> it every Sunday. 時制を変える (過去のこと・未来のこと) I like udon. I <u>cooked</u> it yesterday. I <u>will eat</u> it at (お店の名前) next week. 逆の話題に変える I like udon <u>but</u> I don't like soba.</p>
<p>【前置詞・接続詞】</p> <p>前置詞 場所 in / at / on / under 時 every day / in the morning / at night / before dinner / after lunch / on Sunday(s) 例 For example, ~.</p> <p>接続詞 ~ because ... ~ when ... ~ if ... ~ and ... ~ but ...</p>		

聞き手 Listeners 【相手の意見に相づちを打ち、考えを引き出して話が続くように工夫する】		
<p>【賛成・同意】</p> <p>I agree. I think so, too. Me, too. You're right. Exactly. I get it. / I've got it. OK. / Yeah. / Uh-huh / All right.</p>	<p>【反対】</p> <p>I disagree. I don't think so. No way. No kidding. Are you kidding? Are you sure? Impossible.</p>	<p>【感想】</p> <p>Wow! / Really? That's nice. That sounds Good. (like fun.) Cool! / Great! / Awesome! That's a good idea. That's too bad. How exciting!</p>
<p>【聞き返す】</p> <p>Sorry? Pardon?</p>	<p>【繰り返して確認する】</p> <p>Do you? / Did you? / Are you? Oh, you like...!</p>	<p>【会話を終える】</p> <p>Thank you. Nice talking with you.</p>

<ワークシートの具体例>

DATE: September LESSON: 3 C

CLASS: NO. NAME

1 TODAY'S QUESTION: What sports do you play?
(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)
(7)
(8)
自分の意見の理由を具体例や体験談を用いてより詳しく説明できていますか？

2 パートナーの意見 (メモ) ※日本語でもOK。

<p>ねらい</p> <p>パートナーを替えて複数回活動を行った場合、書き出す前に誰がどんなことを発言したか整理するためにメモ欄を作った。</p>
--

3 パートナーの意見に対する自分の感想

(1) <u>(Name)</u> likes <u> </u> .	
(2)	((1)に対して自分がどう思うか)
(3)	((2)と思う理由や具体例等)

4 英語で何と言えばよいか分からなかった単語や表現/友達から学んだ表現

(例) ~に興味がある	I 'm interested in science.

<p>工夫した点</p> <p>ワークシートは基本的に全学年で同じ形式のものを使い、単元のセクションや質問だけ変えて使えるようにした。ただし、学年や生徒の実態に応じて、書き出しやガイドとなる説明を付け足して、生徒が容易に書き出せるよう配慮した。</p>

5 評価

(1) 評価方法

指導と評価は一体であることから、既述の技能統合型の言語活動（TQ活動）に取り組んだ成果を評価する機会も設定した。評価方法としては、パフォーマンステストとペーパーテストを設定した。

パフォーマンステストにおいては、それまで行った技能統合型の言語活動の中から3題を提示し、試験官（ALTが行ってもよい）が三つの中から一つ出題した。1分間、30秒間といった時間設定の中で発話した文の数に応じた評価を与えた。ただし、通常の活動と同様、“I like～.”のような中学生にとって言いやすい文だけを羅列するパフォーマンスにならないよう、「同じ動詞を用いて文の目的語だけ替えた英文を2文以上続けられない」という条件も加えた。

ペーパーテストでは基本的には同様の条件を提示し、“Answer in more than two sentences.”などの質問を加えることで、生徒が多くの文を書けるよう配慮した。

(2) 評価規準

技能統合型の言語活動の目的は、思考力・判断力・表現力等を伸ばすことである。客観性のある評価が必要となるため、評価対象を数値化することが望ましい。

しかし、それだけでは覚えてきた文を発話するだけになってしまう可能性があり、思考力・判断力・表現力等を測るテストとしては不十分である。そこで、1年生では論理的に伝える力を、2、3年生では事前に準備したパフォーマンスだけでなく、即興力を測る条件も設定した。

例えば、1年生では、「自分の意見の理由を言えているか」、「具体例や体験談を交えて説明できているか」という条件を付けた。2年生では、1年生の条件に加え、話者の発話が終わった後、試験官が話者の発言の内容に関する質問をし、適切に答えられるかどうかを評価に加えた。3年生では、1、2年生の条件に加え、試験官の質問に答えるとともに、その意見を具体例や体験談を交えてより詳しく説明できているかどうかを評価に加えた。

6 検証授業（第2学年）

(1) 使用教科書 NEW CROWN ENGLISH SERIES 2 単元 Lesson 4 “Enjoy Sushi”

(2) 単元の目標

- ア 日本の食文化について関心をもつ。
- イ 地域ごとに特色のある食文化があることを学ぶ。
- ウ 本文の内容や自分たちの地域の食文化について、自分の意見や考えを表現する。
- エ [There + be 動詞～] や動名詞を含んだ英文の意味を聞いたり、読んだりして理解し、それらを用いて、英文を書いたり、話したりすることができる。
- オ 町の名所の紹介文を英語で書く。

(3) 単元の評価規準

	ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
評価規準	① 英語を聞いて、内容を理解、推測しようとしている。 ② 英語で書かれた内容を繰り返して読んだり、読み返したりして読み続けようとする。 ③ ペアでの活動やプレゼンテーション等に間違いを恐れず積極的に取り組もうとしている。	① 教師や他の生徒がする質問に対して英語で応答することができる。 ② 英語らしい発音・イントネーションを意識して音読できる。 ③ 英文を正確に早く書くことができる。	① 教科書本文の内容を聞いて理解することができる。 ② 教科書本文の内容を読んで理解することができる。	① [There + be 動詞～] を用いた文の構造を理解している。 ② 動名詞を含んだ文の構造を理解している。

(4) 指導観

ア 単元観

この単元では、世界中の人々から関心が寄せられている日本食を話題にし、その中でも多くの国と地域で食べられている sushi を話題の中心にし、食文化に興味をもたせながら、自分の考えや意見を英語で表現する。文構造・文法については [There + be 動詞～]、動名詞について学習する。教科書本文の内容を理解しながら、簡単な英文を用いて自分の考えや意見を伝え合う言語活動を通して、実践的な会話や、自己表現活動ができるようにつなげていきたい。

イ 教材観

ピクチャーカードを用いて、本文の内容を理解し、フラッシュカードを用いて新出単語を導入し、発音練習を行う。CD等を用いて、[There + be 動詞]、動名詞を含む地域の

寿司について書かれている英文を聞いたり読んだりして、内容を把握し、英問英答により内容理解を確認する。地域の寿司の特徴についての表現を参考にしながら、日本の有名な食べ物についてイメージを広げることにより、聞いたり読んだりしたことに関して、簡単な英語を用いて自分の考えや意見を伝え合う。この技能統合型の言語活動を通して、既習事項の定着と活用を図り、即興性や積極性、継続性を身に付けながら自己表現活動ができるようにする。

(5) 年間指導計画における位置付け

1学期には、過去形、過去進行形、未来形、接続詞の that 等を学習し、過去の体験やこれからしようと思うこと、予定などの表現、I think that～を用いて、自分の考えを述べる表現を学習している。本課では [There + be 動詞～] や動名詞を学び、あるものや「～することが好き」などの表現を学習し定着を図る。この後、不定詞を学習し「～したい」や「～するために…する」などの表現ができることにより、自己表現の幅を広げていきたい。

(6) 単元の学習指導計画 (10 時間扱い)

	学習内容・学習活動	評価規準・評価方法
第1時	[There + be 動詞～] の文構造を理解する。	エ① 後日ペーパーテスト
第2時	Get part① ・地域の特産物についての対話文の内容を理解する。	ア①③ 観察 イ① 観察 ウ① 観察
第3時	動名詞の文構造を理解する。	エ② 後日ペーパーテスト
第4時	Get part② 自分たちが好きなことについての英文の内容を理解する。	ア①③ 観察 イ① 観察 ウ① 観察
第5時	Use Read 地域ごとに特色のある寿司が掲載されたガイドブックの記事の内容について、概要を理解する。	ア①② 観察 イ① 観察 ウ① 観察
第6時 (本時)	Use Read 自分の好きな日本食について、自分の考え、意見を表現する。	ア①③ 観察 イ③ ワークシート ウ① 観察
第7時	・Listen [There + be 動詞～] や動名詞を含む駅の案内所での会話を聞いて、概要や要点を正確に聞き取る。 ・自分が紹介したい場所と、そこにあるものやそこでできることを正しく書く。	イ③ ワークシート ウ① 観察
第8時	文構造・文法のまとめ	エ①② ノート
第9時	音読テスト・単元テスト	イ② 音読テスト ウ②エ①② 単元テスト
第10時	Oral Presentation	ア④イ② 観察

(7) 本時


ア 本時のねらい

(ア) 積極的に英語を聞いたり、読んだり、話したり、書いたりしようとする。

(イ) まとまった分量の英文を聞いたり読んだりして内容を理解し、簡単な英文を用いて、自分の意見や考えを表現する。

イ 本時の展開

指導過程 (time)	学習活動	教師の指示・留意点	評価規準 評価方法
1 Greeting (3 min.)	<ul style="list-style-type: none">英語で挨拶する。出席を確認する。	<ul style="list-style-type: none">英語で挨拶を行い、英語で言語活動を行う雰囲気を作る。	
2 Warm-up (15 min.)	<ul style="list-style-type: none">Bingo (8 min.) をする。英語の歌を歌う。	<ul style="list-style-type: none">ペアで協力し合い助け合っ てペアワークを行うよう支 援する。英語のリズムや音声を楽し む。	
3 Review (10 min.)	<ul style="list-style-type: none">教科書の本文を聞く。教師の話す英語やCDの英 語を集中して聞き、内容を つかむ。絵を見ながら英語の質問に 答える。	<ul style="list-style-type: none">視覚教材を用いて、内容を 理解しやすいように工夫す る。つまずきのある生徒を支援 する。	ウ① 観察
4 Speaking and Writing Activities (15 min.)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">技能統合型の言語活動 Today's Question: What's your favorite Japanese food?</div> <ul style="list-style-type: none">自分の好きな日本食につい て、ペアで1分ずつ英語で 話す。話した英文の数を数 える。ペアを変えてもう一度話 す。ペアを変えてもう一度話 す。(3回目)	<ul style="list-style-type: none">他の生徒からも学び合うよ うにする。どうしたらたくさん話せる か考えさせる。他の人の発表を聞いて、参 考になることを理解させ る。	ア①③ 観察

<p>5 Consolidation (7 min.)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで話した内容についてワークシートに記入する  <ul style="list-style-type: none"> ・言えた英文の数を記録させる。 ・ねらいが達成できたか振り返る。 ・家庭学習の課題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書けない英語についてはカタカナなどで書き、後で調べるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な英文を用いて、自分の考えや意見を表現する英文を言えた数が増えたか確認する。 	<p>イ③ ワークシート</p>
-------------------------------------	--	---	----------------------

(8) 成果と課題

ア 成果

「教科書の内容を踏まえ、既習事項を用いて、自分のこと、身の回りのこと、自分の考えや意見を論理的に英語で表現すること」を目指した最初の授業であったが、事前に4技能の「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の中でも、特に「話すこと」の練習の重要性について説明し、活動のねらいを明確にして動機付けを行った。英語の発話量を増やすため、会話を円滑に継続させるために必要なことを考えさせ、ワークシートを用いて、相づち、つなぎ言葉などを練習した。

検証授業では、アイコンタクトをしながら、相手に聞こえるような適切な音量で、伝えようという気持ちをもって、間違いを恐れずに英語を積極的に話そうとする生徒の姿を見ることができた。また、1回目の活動の後に、たくさん話すためにはどうすればいいかを考えさせることで、聞き手が相づちを打ったり、質問したりすることで発話量が増えるということを確認した。生徒が話したことを発表をさせ、その内容を板書で取り上げ、単語や表現を確認するなど、体系的に各活動を価値付けて、意見の後に理由、具体例、過去の経験、感想などを話すとたくさん文が言えるということを確認した。その際、友達の話した内容を参考にしながら、2回目、3回目と段階的に、話す英文量や質、話し方、聞き方などがレベルアップする様子を見ることができた。新出文法事項である動名詞を使って話している生徒もいた。1回目よりも、2回目、3回目と意欲的に生き生きと英語を話し、使える表現が増えてきて、

達成感を得た生徒の姿が見られた。

イ 課題

検証授業の結果、次のような点が課題となった。

- ・ 発話するために必要な語彙や表現の効果的な指導方法
- ・ 生徒の発話を促す発問の工夫
- ・ 適切な活動の回数と所要時間
- ・ 活動後の生徒へのフィードバックの方法
- ・ パフォーマンステスト、定期考査での活動の評価方法

<生徒の感想>

- ・ まずは、質問についてたくさん考えるようにしようと思う。
- ・ もっと単語や文法を知っていれば、話せるようになると思う。
- ・ 友達が言ったことを参考にしたら、話せることが増えた。
- ・ 1回目は何を話せばいいか分からなかったが、3回目は友達と話したことで自分がどういいう話題で話せば良いのかが分かり、表現の幅が広がり、話す文も多くなった。
- ・ 分からない単語、文章を辞書で調べると次に使うことができるので、分からないものがあったら、自分から進んで調べようと思った。



7 検証授業（第2学年）

(1) 使用教科書 NEW CROWN ENGLISH SERIES 2 LESSON 6 Uluru

(2) 単元の目標

- ア ・[主語＋動詞（give 等）＋間接目的語＋（名詞・代名詞）]を用いて、人や物等の流れを伝えることができる。
- ・[主語＋動詞（look 等）＋形容詞]を用いて、人や物等の状態を伝えることができる。
- イ ・教科書本文を参考にし、まとまった量の英文を書くことで、情報を得るための文を書くことができる。
- ・今まで習った文法事項の積み重ねにより、テーマに必要な自己表現をすることができる。

(3) 単元の評価規準

	ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
評価規準	① ペアワークやグループ活動を通して、互いに協力し学び合おうとしている。 ② 学習した言語材料を用いて積極的にコミュニケーション活動に取り組もうとしている。	① 人や物の流れや状態を、give や look などを用いて書いたり話したりすることができる。 ② 既習の表現を用いて、相手から自分の知りたい情報を得ることができる。	① 学習した言語材料を頼りに、教師の話の聞いたり、教科書を読んだりして、旅の楽しさやその地域や文化について理解することができる。 ② 友達の書いた文章を読んだり発表を聞いたりして、内容を理解することができる。	① [主語＋動詞＋間接目的語＋（名詞・代名詞）]を用いた文構造を理解している。 ② [主語＋動詞（look 等）＋形容詞]を用いた文構造を理解している。 ③ 場面に応じた適切な表現や人称代名詞を選択することができる。

(4) 指導観

ア 単元観

本課はオーストラリアに帰省したエマが、写真を見せながらケンと会話をする場面、ケンがもらったお土産についてメイリンに説明する場面、そしてエアーズロック（ウルル）について書かれた新聞コラムを紹介する構成である。各セクションの終わりに「トゥデイズ・クエスチョン（Today's Question; 以下「TQ」と記載する）」を投げかけ、それに答えさせることで思考、判断等をしながら表現する力を身に付けさせる。また、繰り返したQを行うことで、学習した内容について考え、自分の考えや意見を表現する力を高めていく。

イ 教材観

夏休み後に実施する授業で、家族等で国内外を旅行した生徒たちが多く、題材としては、自分と主人公を重ね合わせながら興味をもって取り組める内容である。give や look 等を用い、夏の楽しい思い出を英語で語らせた。本時の前の授業で“My Dream”のスピーチ発表を実施しており、生徒たちが引き続き自分の考え等を物おじせず発表し、記録できるようにする。

(5) 年間指導計画における位置付け

Lesson 1～5 では、過去進行形や [There + be 動詞一]、動名詞や不定詞の三つの用法を学習した。give や look 等を用いて情報を得て、その理由や説明等をする際に、今まで学んできたことを活用し、自己表現に用いる。

(6) 単元の指導計画と評価計画

	学習活動・学習内容	評価規準・評価方法
第1時	<ul style="list-style-type: none"> ・[主語＋動詞 (give 等) ＋間接目的語＋ (名詞・代名詞)] を用いた文の構造を理解する。 ・Lesson 6-1 Get 1 の本文の内容を理解する。 	ア①② 観察 エ① 後日ペーパーテスト
第2時	<ul style="list-style-type: none"> ・[主語＋動詞 (give 等) ＋間接目的語＋ (名詞・代名詞)] の構造を確認する。 ・Lesson 6-1 Get 1 の本文の内容を確認する。 TQ: Where did you go during the summer vacation? 	イ①② 観察、ワークシート ウ② ワークシート
第3時	<ul style="list-style-type: none"> ・[主語＋動詞 (look 等) ＋形容詞] を用いた文の構造を理解する。 ・Lesson 6-2 Get 2 の本文の内容を理解する。 	ア①② 観察 エ② 後日ペーパーテスト
第4時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・[主語＋動詞 (look 等) ＋形容詞] の構造を確認する。 ・Lesson 6-2 Get 2 の本文の内容を確認する。 TQ: What will you give Ms. Yamada? 	イ①② 観察、ワークシート ウ② ワークシート
第5時	<ul style="list-style-type: none"> ・USE Read 6 の本文の内容を理解する。 	エ①② ワークシート
第6時	<ul style="list-style-type: none"> ・USE Read 6 の本文の内容を確認する。 TQ: What do you want to do in Australia? 	イ①② 観察、ワークシート、ウ② 観察
第7時	<ul style="list-style-type: none"> ・Lesson 6 の本文の内容を確認する。 ・単元テスト 	ウ①エ①② 単元テスト

(7) 本時

ア 本時のねらい

- (7) 既習事項を使って、英語で（日本）文化について理解することができる。
- (イ) 対話文を正しく音読し、内容等を理解することができる。
- (ウ) 本文に関係した「TQ」に対し、相手に自分の意見や考え、それについて相手と会話を継続することができる。

(エ) (ウ)について自分の言ったことを書くことができる。

イ 本時の展開

指導過程 (time)	学習活動	教師の指示・留意点	評価規準 評価方法
1 Greeting (3 min.)	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶する。 ・日付や天気等を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で行なった後、改めて数名に確認する。 	
2 Listen-and-Read Activity (10 min.)	<ul style="list-style-type: none"> ・本文（副教材）を黙読し、ページ下の質問の答えに下線を引く。 ・既習でない英単語を含む本文を音読する。 ・二つの英文が、本文の内容と合っているかどうかを冊子に書く。 ・質問に対する答えに下線を引く。 ・英語で本文の内容理解後、再度音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下線をどこに引いたか、口頭で答え合わせする。 ・新出語句も大きな声で発音する。 ・英文を二つ、2回ずつ言う。 ・本文に関する質問を三口頭でする。 ・口頭で答え合わせする。 	
3 Explaining /Reviewing Grammar Point(10min.)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のワークシート [look+形容詞] の答え合わせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭で答え合わせをする。 ・文法のポイントを説明した後、[look+形容詞]を意識しながら音読する。 	
4 Reading Practice and Oral Presentation (15 min.)	<ul style="list-style-type: none"> ・本文 p. 68 のCDを聴く。 ・新出英単語句を音読練習する。 ・本文 (p. 68) を音読練習する。 ・指名された生徒は音読発表する。 ・本文の内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピクチャーカードを見ながら（本は閉じて）英語を聞く。 ・音読練習はテンポよく、数回全体練習した後、ペアで時間を決めて行う。 ・一問一答方式で行う。 	
5 Speaking and Writing Activity (10 min.)	<p>技能統合型の言語活動 Today' s Question: What will you give Ms. Yamada?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TQを、2セット行う。 ・2回の意見交換の後、自分が言ったことなどを、ワークシートに書く。 ・指名された生徒は、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を指名し、発表させる。 	イ①② 観察、ワークシート ウ②ワークシート
6 Consolidation (2 min.)	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の宿題の連絡をする。 ・元気よく挨拶する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語で言いながらポイントは板書し、生徒たちに伝わるようにする。 ・終わりの挨拶をする。 	

(8) 授業観察の視点

- ・ 本文の内容を理解することができたか。
- ・ TQが定着し、活動を円滑に行うことができたか。
- ・ 第1回のTQから言える文章の数が増えたか。
- ・ 相手の話を聞いて、それについて自分の考えを英語で書くことができたか。



(9) 成果と課題

ア 成果

研究主題に掲げたテーマに基づいて検証授業を実施した結果、いくつかの成果を上げることができた。

第1に、教科書本文から「TQ」へ至るまでの流れを、生徒たちに定着させることができた。生徒たちは教科書本文を読んで理解した後、それに関連するテーマで英語で表現するという心構えをもって授業に臨む姿が見られるようになった。また、一つのセッションが終わるごとに「TQ」を実施することによって、徐々に生徒同士が英語で話すことに対する抵抗感がなくなってきた。

第2に、相手の話を聞いて自然に反応できるようになった。「TQ」を開始した当初は「表現集 (p. 10)」を見ながら反応していた生徒たちも、回数を重ねるうちに相手の目を見て、その場に合った表情や声色で返答するようになった。また、「表現集」にある言葉に加えて自分の意見や感想をその場で相手に伝えるようになった。

第3に、「TQ」を実施した当初に比べ、テーマに基づき自らが英語で発する文の数が増えた。この活動を実施している生徒たちの記録用紙を集計したところ、この活動を本格的に開始したときには1分間で平均2.88文しか言えなかったが、この活動を開始して約2か月経過した現在では1分間で平均4.01文言えるようになっている。

最後に、前回の検証授業の課題で「活動の回数は…どのくらいが適当か」と記されていた。5回のTQ活動を数回行い、発話する文章の数の統計をとったところ、本校の生徒たちは複数回行くと発話する文の数が上昇する傾向にあることが分かった (表1参照)。

表1 TQ活動の回数と発話する文数の平均

Lesson	L5 Part 1			L5 Part 2		Use Read 5		L6-1	L6 Part 2	
	1	2	3	1	2	1	2	1	1	2
学年	2.9	3.7	4.2	3.4	3.9	4.4	5.1	4.2	3.8	4
A組平均	1.88	3.24	3.36	2.76	3.48	3.96	3.92	3.4	2.96	3.64
B組平均	2.51	3.28	3.77	3.34	3.66	3.79	4.51	3.9	3.36	3.72
C組平均	2.76	3.83	4.45	3.07	4.31	3.93	4.41	3.79	2.55	3.21
D組平均	3.42	4.13	4.71	4.19	4.03	4.84	5.81	5.52	5	5.23
E組平均	2.92	3.61	3.81	3	3.69	4.83	5.64	3.61	3.81	3.78
F組平均	3.22	4.41	4.74	3.41	4.33	4.89	5.48	4.67	4.41	4.48

2か月間で生徒たちの発話する文の数が増えた理由は、生徒たちが行いたい活動を繰り返し行ったからである。様々なテーマや質問について自ら考え、伝えたい情報を相手に伝える即興力、相手の話を聞いてそれを受容し反応する力を、英語の活動を通して引き続き鍛えていきたい。

イ 課題

生徒たちが今後も楽しく正しく英語で話すことができるよう、フィードバックすることが必須条件である。これについては以下のとおりいくつかの方法がある。

(ア) 「TQ」用紙を添削し、返却する。

個々に合ったフィードバックである。自分が言った／書いた表現の正誤が分かるだけでなく、正しい表現が記してある。

(イ) 多くの生徒たちがしていた間違いを（口頭で）伝える。

「TQ」用紙を返却しながら教員が「多かった間違い」について述べることにより生徒たち自らがチェックすることができる。

(ウ) 英語室や廊下等に掲示する。

教員が「TQ」を添削した後、それらを一定期間掲示する。良かった点、斬新なアイデア等について教員がコメントすることで、生徒たちは同級生の英語から学ぶことができる。掲示場所、期間、掲示物に対する配慮が必要である。



(エ) お便りを発行する。

お便りには生徒たちの作品、多くの生徒たちがしていた間違い、多くの生徒たちが言えなかった英語等を記し生徒たちに配布する。生徒たちだけでなく教員自身も活動を振り返ることができる。

もう一つの課題は「TQ」ワークシートにある「パートナーの意見に対する自分の感想」で書く内容を充実させることである。「TQ」を実施した当初は、「パートナーの意見に対する自分の感想」ではなく、「パートナーの意見」を書く生徒がいた。そこでフィードバックする際、「パートナーの意見に対する自分の感想を書くように」と指導した結果、「パートナーの意見」の次に簡単な1文（I think so, too. や That's nice. 等）を記すようになった。次は、「自分がそう思う理由や具体例を書くように」と指導したところ、現在では「パートナーの意見に対する自分の感想」を3文書く生徒たちが見られるようになった。今後も引き続き「パートナーの意見に対する自分の感想」を書くよう指導し、書くことでパートナーと対話ができる力を身に付けさせたい。

今後も継続的に「TQ」を実施し、生徒たちの実態を考慮しながらフィードバックを行う。フィードバックが次回のTQを充実させる。この方法で継続して生徒たちの「思考力・判断力・表現力等」だけではなく、「即興力」や「相手を受容する心」も育てていきたい。

VI 研究の成果と課題

1 研究の成果

(1) 技能統合型の言語活動の開発と実践

現在の英語教育が置かれている現状とそれに伴う課題認識から、生徒の思考力・判断力・表現力等を高めるために、この技能統合型の言語活動を開発した。一人でも多くの英語科教員が共有できることを目指し、「教科書を使った活動であること」「普段の指導にひと工夫を加えて行えること」を柱として、実践を行うとともに、活動に必要な表現集、ワークシート、記録用紙を作成した。検証授業や所属校での実践と協議を重ねることで技能統合型の言語活動を充実させることができた。

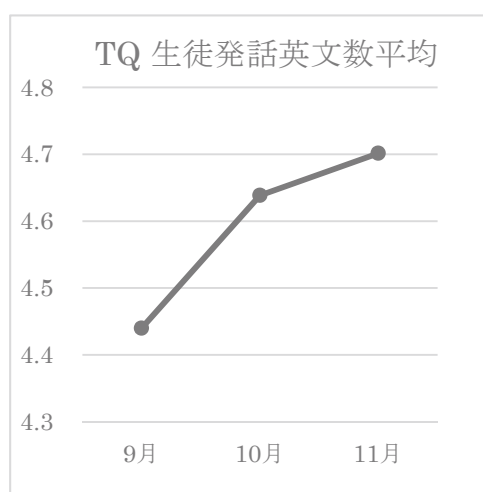
(2) 発話への意識の高まり

この技能統合型の言語活動を教科書本文の内容理解後の活動として設定することにより、「自分の意見を発信する」という目標をもたせ、継続的に活動を行ってきた。その結果、意見には理由を加えること (I think ~ because …)、論理的に意見を述べること (I have two reasons. First, ~. Second, ~.), 理由には具体例 (For example, ~.) や体験を交えると説得力を増すことができるといった意見の発信の仕方の「型」を身に付けるようになった。そしてそれらの型に慣れていくにつれ、発問の内容に関わらず、その型を活用して発話を継続させようとする態度が見られるようになった。

また、教科書本文の内容を積極的に深く読み取ろうとする意識の向上が見られた。加えて、自分の考えや気持ちを発信するために必要な表現を、教科書本文から学べるという意識を生徒がもつようになり、教科書本文の内容理解が「アウトプットのためのインプット」であると認識されるようになった。

(3) 表現力の高まり

回数を重ねることで、会話でのスピーキングや意見のまとめのライティングでの文数において伸長が見られ（下図参照）、発話内容の質の面でも向上が見られた（次ページ参照）。



結果として学年や生徒、発問は異なるが、全体として平均して4～5文程度の発話ができるようになった。

発問によって話しやすさが変化するので、10月や11月であっても発話文数が落ちることもあり、必ずしも直線的に上がっていくわけではないが、この短期間でも文数は微増する結果が得られた。

2年生以降は接続詞や後置修飾を用いることで1文が長くなるので、発話の量の見取りを「語数」にしてこの取組を継続していくことが考えられる。

また、22 ページで述べたように、同じTQで複数回（2～3回程度）発話をすると、必ず文数が伸びることも確認された。

（※グラフは、本研究員が各所属校で指導する1年251名、2年224名、3年129名、計604名の合算データである。）

<生徒のワークシート（例）>

【9月初旬】

Today's Question: What Japanese food do you like?	
①	I like tempura.
②	- because it is so yummy.
③	My favorite tempura is eggplant.
④	Because it is juice.
⑤	.
⑥	.
⑦	.
⑧	.
自分の意見を、理由や具体例、体験談を用いてより詳しく説明でき	

多少の間違いはあるが、型を身に付けたことで表現力が高まっている。

【10月下旬】

1 Today's Question: What will you give Mr. Momose for a birthday present?		
①	I think white clothes are good.	意見
②	because I have two main reasons. First, he	理由
③	always wears a white cloth, because he is a science	詳しく説明 場所 時 頻度 描写 例 感想
④	teacher. Science teacher needs a lot of white clothes	
⑤	Second, he gets a lot of sweat, so his white	S変 V変 時制 遊
⑥	clothes are a little dirty. I hope to wash	
⑦	his white clothes and give a new one.	
⑧	I think Mr. Momose is good when he wears a	
⑨	white clothes. He is a good science teacher.	

2 研究の課題

(1) フィードバックの方法について

研究を重ねる中で、常に課題に上がっていたのが、このフィードバックの問題である。生徒の会話をどのように見取って、どのような指導をどのくらい入れていくことが効果的なのかは、この短期間の研究では共通理解に至らなかった。活動後にワークシートに書いた文を毎回添削して返却していたが、時間に見合った効果の検証が必要であり、今後の研究の継続が望まれる。

(2) 発問内容の工夫

フィードバックとともに発問をどうするのかという問題も常に協議の中心であった。発問によって会話が続かないことがあるので、常に試行錯誤しながらの実践であった。その中でも、生徒にとって「身近な話題」であること（Where did you go for working experience?）、「意見の分化」が起りやすいもの（Which do you like better, summer or winter?）などを心掛けた。「どんな本文にも共通して使える発問」（Which part of the talk are you interested in?）や、生徒の思考や発話を促すような発問の研究を今後行う必要がある。

(3) 年間指導計画への位置付け

本研究での技能統合型の言語活動は、各研究員の所属学年（1年2名、2年4名、3年2名）で2学期からの活動として実践を行った。従来の指導に加えて取り組むことのできる活動ではあるが、生徒の発達段階に応じた目標設定や、年間指導計画への位置付けなどを明確にして、より意図的・計画的に行うと効果的であると考えられる。

また、「即興で話す」というのは生徒にとっては負荷の大きい活動であるので、発話を支えるための基礎的・基本的な力の定着が不可欠である。そのためには、「音読」や「暗唱」、瞬時的・反射的に英語の質問に答える「Quick Q&A」などを通し、学習内容を定着させた上で、指導に当たる必要がある。

平成27年度 教育研究員名簿

中 学 校 ・ 外 国 語

地 区	学 校 名	職 名	氏 名
千代田区	神田一橋中学校	主任教諭	○池田 弘平
中央区	日本橋中学校	主任教諭	大林 泰代
墨田区	本所中学校	主幹教諭	望月 光代
世田谷区	砧南中学校	教 諭	緒方 淳之
葛飾区	立石中学校	主任教諭	◎河野 光志
武蔵野市	第一中学校	教 諭	坪田 裕希
小金井市	緑中学校	教 諭	山崎 満理
檜原村	檜原中学校	教 諭	田所 毅

◎ 世話人 ○ 副世話人

[担当] 東京都教育庁指導部指導企画課
指導主事 関谷 さやか

平成27年度
教育研究員研究報告書

中学校・外国語

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成27年度第197号〕

平成28年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 正和商事株式会社

リサイクル適性(B)

この印刷物は、板紙へ
リサイクルできます。